

美しい地形と温暖湿潤・寒冷多雪，そして産業遺産

—観光客の目を通した気づきをうながす—

玉川大学教育学部 教授 寺本 潔

① 美しい風景こそ観光資源

社会科では、国土の特色については、4年の47都道府県や5年のくらしと国土のようす、6年の古代の単元などで登場する。そこでは、各県の特産品や名勝、山脈と平野、梅雨・台風・季節風、縄文・弥生の遺跡などが扱われる。とりわけ、5年では「自然条件と人々のくらし」が要点となり、地図帳を使う地理学習らしい内容となっている。教科書には「一年中あたたかい地域や冬の寒さがきびしい地域、山の上にある土地の高い地域や海より土地の低い地域など、気候や地形に特色のある地域の様子をながめてみましょう。」(K社)と記述がある。

しかし、これだけで子どもたちに興味をもたせるのは容易ではない。途中、特産品クイズや白地図の色塗りなどを取り入れても児童のやる気や問いを保ちにくい。ともすれば、調べ学習や解説型の授業に終わってしまいがちになる。

そこで、観光客の視点を取り入れられないだろうか。書店にはいま、『カメラ片手に鉄道旅』『外国人の目から見たニッポン』や『一度は行ってみたい絶景』のたぐいの本が増えている。観光客が大すきな、山村の棚田や離島の海岸美、富士山、京都の竹林のあざやかな緑、雪国のかまくらなどの絶景は、「美しい地形と温暖湿潤・寒冷多雪」という日本固有の自然の特性を表すからである。

授業では、「美しい地形・温暖湿潤・寒冷多雪」という漢字をあえて黒板に大きく書き、「この漢字は日本の自然を表しています。外国人も自然の美しさにひかれて日本にたくさん観光に来ています。」「どんな観光がどこで楽しめるのだろうか？

地図帳や旅行パンフレットで探してみよう！」と切り出せば、具体的な観光地や観光行動が想起され、国土の自然への気づきがうながされる。例えば、ダイビング(沖縄県恩納村)やスキー(北海道ニセコ)、避暑(長野県野辺山原)、水郷めぐり(福岡県柳川)などがみつかる。

さらに、観光客の楽しみから自然条件を生かした特産品につなげれば、もっと興味をもつだろう。続く5年の大単元「日本の食料生産」で登場する米や果物、野菜でさえ、ブランド力が求められ、多くの特産品は観光土産になっている。

② 近代の産業遺産も観光資源

自然の魅力以外にアジアで最初に産業革命を成功させた日本の近代化もドラマに満ちあふれ、観光客に注目されている。世界遺産(明治日本の産業革命遺産群)に選ばれた長崎県端島(軍艦島)や三池炭鉱、伊豆の国市の反射炉など、各地に残る産業遺産への関心が高まりつつある。世界遺産ではないが、昨年、北海道稚内市の港に戦前から残る稚内港北防波堤ドーム(通称・ドーム)という美しいコンクリート構造物を地元の4年生に学んでもらう出前授業を実施した。

戦前の樺太航路の遺産でもあり、荒れ狂うオホーツク海の波から乗客や港を守る役目を果たした。ドームの中まで客車が横づけでき、食堂まであった。70本の宮殿に似た円柱と427mもの長大なドームが特徴的で、北海道遺産や土木学会選奨の遺産にも指定されており、稚内の代表的な観光名所にもなっている。写真①～④は、そのときの指導のようすである。

児童にとっては日常目にしてはいる建造物であ

稚内港北防波堤ドーム

- ①美しい北防波堤ドーム
- ②設計者、土谷実技師のくふう・苦勞に気づかせる筆者
- ③カメラを持っていざ、調査
(児童は稚内中央小学校4年生)
- ④太いコンクリート柱を囲む子どもたち



①



③



②



④

図 『楽しく学ぶ小学生の地図帳』 p.47

り、ときおり開かれる市のイベント会場との認識にとどまっていた。それをいきなり「遺産」と説明されても、教え込みになりかねない。わたしは児童に興味をもたせるため、ドーム型の防波堤を誰が発案したのか、建設にはどのような苦勞があったのか、美しさの意味は何か、そして防波堤が貢献したことは何か、といった「発案⇒建設⇒美⇒貢献」の4ステップを考案し、9時間の出前授業にのぞんだ。授業後につづられた作文を紹介しよう。

わたしは、寺本先生といっしょに北防波ていドームの勉強をしました。最初におどろいたことは、北防波ていドームの形を考えた土谷実さんは、当時26さいだったことです。また、昔の北防波ていドームには、さんばし駅があったことにも、す

ごくおどろきました。北防波ていドームは、波と同じ形にして冬の高い波をふせぐためにつくられたらしいです。しかも、1936年の今から79年前にできたらしいです。それでいまだに北防波ていドームが残っている理由をわたしは、柱の数を70本にして強度をたかめたのと、大昔に造られたギリシアの宮でんの柱のような形にしたからだと思います。(中略)これからわたしたちが北防波ていドームを守り、80年、90年、100年歴史をつみかさねていくことを寺本先生は伝えたかったからではないかと思います。(女子)

わたしのような他者が教えることで地元の遺産を見直すきっかけとなった。自県に残る産業遺産の価値を他者である観光客に説明できる資質を育てたいものである。

◆観光授業の玉手箱



- ①日本の自然の特色は、美しい地形と温暖湿潤・寒冷多雪というキーワードで指導できる。
- ②各地に残る近代のすぐれた産業遺産(土木・交通・工場)を観光資源として見つめよう。
- ③観光客の視点を子どもたちに意識づけることで地域や日本を見直すきっかけとなる。